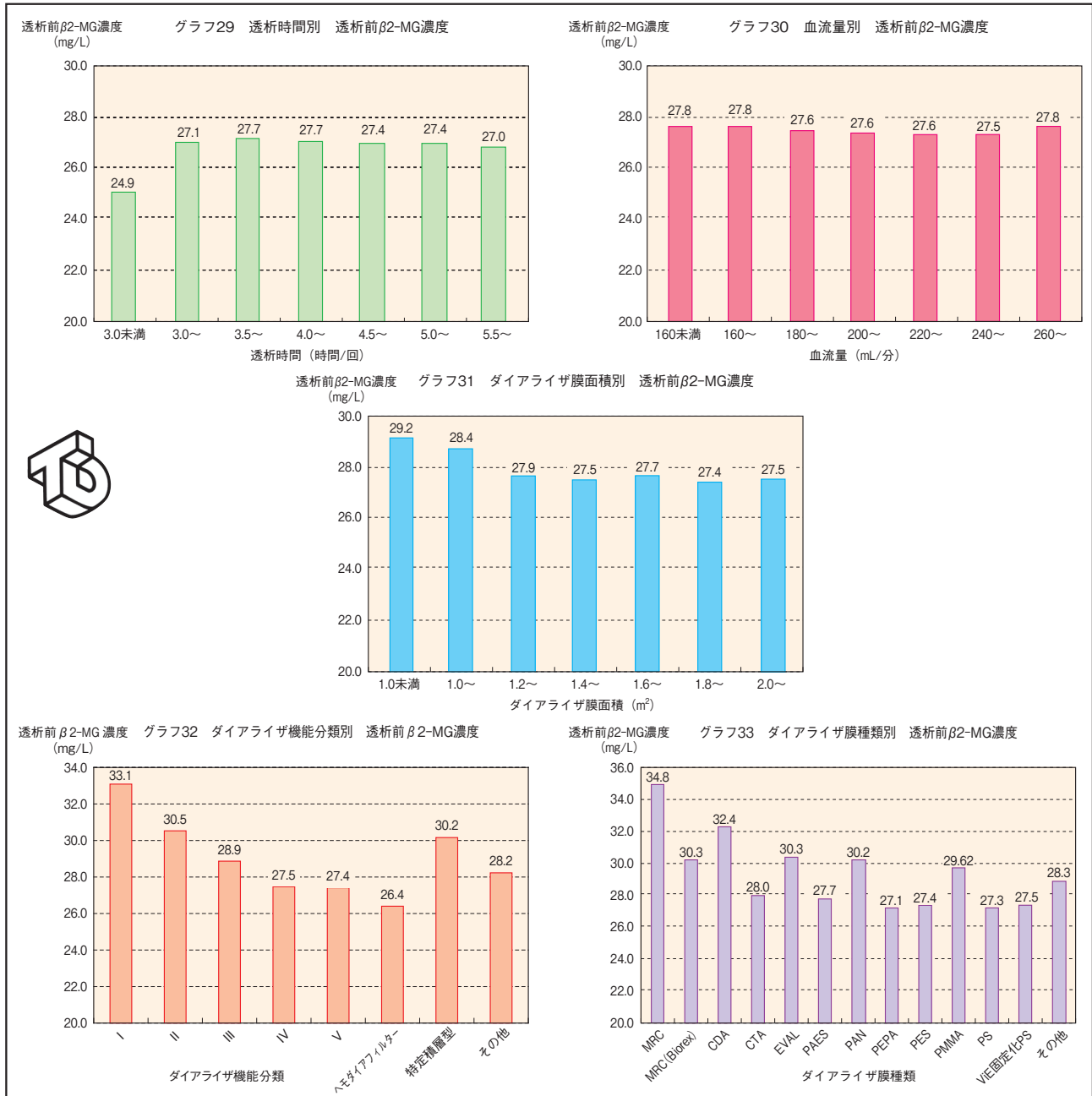


4) 血液透析条件と各種データ

(3) 透析条件と透析前β2マイクログロブリン(β2-MG)濃度 (図表39)



患者調査による集計

グラフ29 集計対象：128,518人
 グラフ30 集計対象：127,925人
 グラフ31 集計対象：127,867人
 グラフ32 集計対象：127,687人
 グラフ33 集計対象：127,687人

解説

透析時間が3時間未満の患者で、透析前β2マイクログロブリン(β2-MG)濃度が低かったが、他に顕著な差がみられなかった。

血流量と透析前β2-MG濃度には、一定の傾向がみられなかった。

ダイアライザ膜面積が大きい方が、透析前β2-MG濃度が、僅かであるが低い傾向がみられた。

ダイアライザ機能分類別では、低分子タンパク除去能が高い型で、透析前β2-MG濃度が低い傾向がみられた。

ダイアライザ膜種類別では、PS膜、PES膜、PEPA膜などの合成高分子系膜の透析前β2-MG濃度が低い傾向がみられた。

透析前β2-MG濃度は除去量だけでなく、産生量、残腎機能などの影響を受けるが、42頁のβ2-MG除去率と併せてみると、β2-MG濃度の低減には、低分子タンパク除去能が高く膜面積の大きいダイアライザが有利であることが示唆される。